

令和8年度学校だより

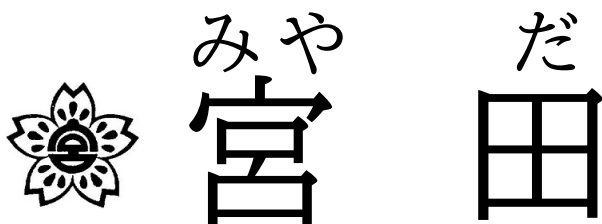
第2号 令和8年5月

氷見市立宮田小学校

TEL 91-1806 FAX 91-6033

Eメール miyada-es@himi.ed.jp

HP 宮田小学校



仲間とともに全力であきらめないで最後までがんばる宮田っ子

みんなで 心一つに 運動会



5月16日、これまでの宮田っ子の頑張りに応えるような、さわやかな天候に恵まれ、運動会を開催しました。朝早くからご協力いただいた保護者の皆様とともに準備を進め、素晴らしい環境の中で、子供たちは一人一人、思う存分、力を発揮していました。日頃より本校の教育活動を温かく支えてくださる保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

今年の運動会のテーマは、「仲間とともに全力であきらめないで最後までがんばる宮田っ子」でした。わたしは、このテーマを聞いて、「自分は自分の主人公」という言葉を思い出しました。世界でたった一人の自分を、光いっぱいの自分にしていくのは、他の誰でもない、自分自身。少々つらいことがあっても、投げ出さず、自分を創り上げていく。今日の運動会は、まさに皆さんが自分の人生の主人公として、自分を光り輝かせる舞台となりました。

全力を出し切り、競技を終えたときに見せた、晴れやかな「いい顔」。

校庭に響き渡る、自分のチームだけでなく、最後まで走り続ける友達に送った応援の「いい声」。

泥だらけになりながら、あきらめないで必死に最後までやり抜く、凛とした「いい姿」。

1、2、3年生が音楽に合わせてダンスをしながら、笑顔いっぱいに玉を投げ入れる生き生きとした様子。4、5、6年生は、みんなで知恵を絞って作戦を立て、仲間と助け合って必死にタイヤに向かう真剣さ。こうして自分を輝かせるために大切だったのが、「心のエンジン」です。「最後までやり抜こう」「仲間のために力を尽くそう」という心のエンジンが前に進むと、人は急に素晴らしくなります。子供たちは心のエンジンを全開にして、初めての運動会にドキドキしている1年生も、小学校生活の集大成を見せてくれる6年生も、学年は違っても「心はひとつ」でした。「できた」「楽しかった」だけでなく、「友達っていいな」「みんなで力を合わせるっていいな」という心に残る一日になりました。順位がどうであれ、最後まで自分の「心のエンジン」を切らさず、自分から逃げずに走りきった人。そんな人の姿こそが、見る人の心を震わせました。最後まで温かい声援を送ってくださった来賓の皆様、一番近くで声援を送ってくださったご家族の方、熱心に指導してくださった先生方に、感謝の気持ちをもつことができましたと思います。そして何より、あきらめずに頑張り抜いた自分に、心の底から「ありがとう」と言えたのではないのでしょうか。この運動会で発揮した「あきらめない心」と「仲間との絆」を、これからの学校生活という次のステージでも大切にしていってけると期待しています。子供たちの輝きを間近で見ることができて、本当にうれしかったです。感動をありがとう！



<5月9日(土)>

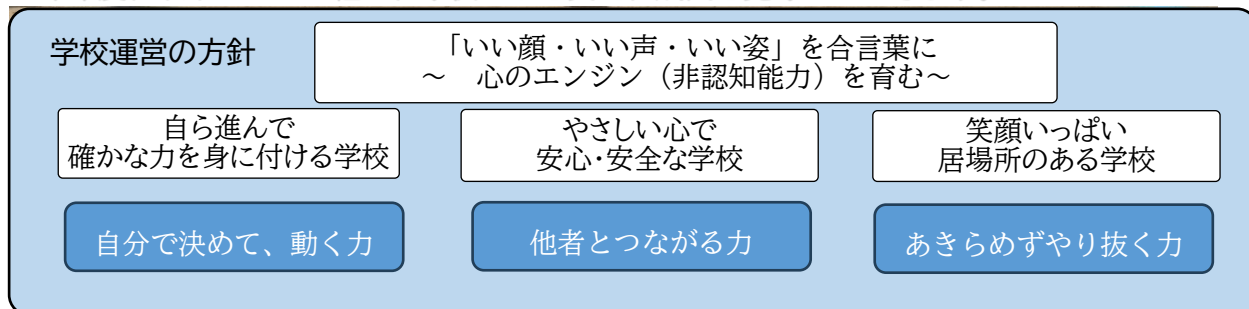
グラウンド等の整備活動へのご協力、ありがとうございました>

土曜日にもかかわらず、保護者の皆様には、環境整備活動にご参加くださり、ありがとうございました。グラウンドや校舎周り、除草等、おかげさまで、気持ちよく運動会や学習をすることができました。早朝からの作業に、快くご協力いただき、心より感謝いたします。



<宮田小学校 学校運営の方針～保護者・地域とともに～>

今年度、以下の3つの柱で、子供たちを支え、成長を見守っていきます。



<宮田小学校アクションプラン>

学校では、学校教育目標の実現に向けて、2つのアクションプランを立てて取り組んでおります。子供たちの取組の様子をおたよりやホームページ等でお知らせしたいと思います。

ご家庭でも励ましやアドバイスをお願いいたします。

学力の向上	豊かな心
視点を基に相手意識・目的意識をもって話したり聞いたりする子供を85%にする。	相手の気持ちを考えて行動する子供を85%以上にする。

<宮田小学校 学校運営協議会>

令和8年度の学校運営協議会のみなさんです。

- 会長 杉本 義文 氏 (自治会連絡協議会会長)
- 副会長 二本 幸晴 氏 (自治会連絡協議会副会長)
- 野岸 伸 氏 (宮田地区社会福祉協議会)
- 山崎 豊子 氏 (保育園副園長)
- 奥原 佳弘 氏 (宮田小 PTA 会長)



地域の方とともに
～クラブ活動～



<宮田っ子スケッチ～>

ある日の授業中、廊下を歩いていると、二人の子供が少し距離をあけて歩いていました。先を歩いていた子供が振り返ると、「ねえ、〇〇。さっき、何でたたいたん？」と後ろを歩いている子供に聞きました。すると、その子供は「ごめん。さっきも言ったけど、ふざけてたたいた…」とささやくように答えました。その後二人は、黙って学級の活動にそっと戻って行きました。おそらく、先生から指導を受けて落ち着いたのでしょう。お互いに相手のことを分かり合おうと、もう一度確かめたかのように、私には見えました。たたいてしまった心の動き、決して、いやな思いをさせてやろうと思ってしたのではなく、関わりたいという気持ちが、少しゆがんだ形で出てしまった行動だったのではないかと感じました。暴力を振るうことはもちろんよくないことですが、こんな失敗から子供がよくなる、変わろうとする一歩を踏み出すことができるようになると思います。ぜひ、「他者とつながろう」「分かり合おう」とするその背中を後押ししていきたいです。

(荒屋 夕香)